

備える

その10「避難所としての学校」

ルールなく 手探り運営

阪神大震災 神戸の小学校

つ配る？

一九九五年一月十七日午前八時すぎ、教頭の吉田仁子さん（当時十五歳）は、JR三宮駅に近い小野柄のおのゑ小学校（神戸市中央区）に一番乗りで出勤した。

校舎は壊れていないだろう。か。子どもたちは無事だろう。か。洗濯（せんたく）いらいしながらマイカーの中で考えていた。ようつやく校庭に足を踏み入れたのは、たきき、目に飛び込んだのは、たき火を囲む人々の輪だった。門の鍵はけが聞かれていた。

三十人は
いたろう
か。善の身
善のままで
遊難しき

徐

徐々に拡大『住民自治』

た住民が校庭に置いてあった長めだ。一危動物の糞と肥料や、いくつ叩いても二人を奪ひ取上かつていた住民の班などに

いすを燃やして暖を取っている。吉田さんは学校が避難所になったことを思い知った。

小野柄小の児童数は都心空洞化のせいで百四十四人。教職員は校長以下十六人。二年後に統合を控えた小さな学校は、ピーク時には三千人も住民を抱えることになる。

■荒れ果てる教育の場

吉田さんが校舎の警備システムを解除すると、校庭にいた住民は続々と校舎内へ割れたガラスが散乱する廊下になだれ込んできた。配布にあたった教員が

おにきりや弁当は半分の三百人だけ。「本人の分しか渡せません」。区役所からの連絡はなく電話もつながらない。避難所運営が徐々に広がっていった。

「校長さんは表に出たらあかかん。そうやって、住民のまとめめ

保健室へはいらなくてもいい。押し寄せる波をうするこどもでできない。校内に飾られて教師に容赦なく投げつけられ

種にするため二ノ板ごと外された。「せめてそれだけは」。

必死に止めたが、「そんなこと言っている場合か」と罵声(ばせい)が返ってくるだけだったが、教師たちはなすすべがなく

断水のためトイレは排せつ物であふれ返った。非常事態とはい

え、教育の場がどんどん荒れ果てていくのを目の当たりにしながら、子どもが頑張っているのに、大人がいっつも嘆いているわけにはいかない。そんな雰囲気

福水さんは、子どもたちに頭面に出てもらうことも心掛け

た。高校生を中心にジュニアボ

ランテアが組織され、ブルバ

の水をバケツリレーしてトイレ

掃除された。校内放送も任せ

子どものが頑張っているのに、

■避難所新聞発行も

徐々に拡大『住民自治』

■校長の一言で結束

地震当日、教職員が学校に着的た時点で避難住民がいた場所

場所	人数	割合
校内	53	22.6%
校舎内	69	29.5%
運動場	68	29.1%
周辺道路・公園など	44	18.8%
合計	234	

地震当日、教職員が学校に着的た時点で避難住民がいた場所

1月7日(火) 曇 出勤 教頭以下7人
泊まり 〃

5:46 強神大震災発生
8:00 教頭ら3人出勤、開門、避難住民が運動場に
すぎ 校区内巡視、児童安全確認90%
教長以下各職員より連絡あり
12:00 区対策本部より緊急避難場所状況視察
講堂開放、電話不通に
14:00 全教室(空き教室含む)開放
15:00 最初の食糧届く。おにぎり、菓子の内、いなりずしを300人分、校区内巡視
21:00 校区内巡視
(避難者 約600人)

1月18日(水) 晴 出勤 教長、教頭以下6人
泊まり 教長、教頭以下4人

物資 乾パン 25000人分
毛布 1000枚
夜 おにぎり、パン、牛乳、ワイルド
午後 近隣3校訪問
自費発電 中央階段付近3カ所照明
電話復旧 したずけ人電話殺到
NTTより特設電話設置
(避難者 約1000人)

1月19日(木) 晴 出勤 教長、教頭以下7人
泊まり 教長以下4人

4:00 京都よりボランティア 焼きそば1000人分
10:00 自衛隊給水
11:30 教長より避難住民全員へ公衆道德協力を要請
自治組織づくり協議
13:00 自治会編成
20:00 本部世話係打ち合わせ会
22:00 九州電力 自費発電
(避難者 約1700人)

1月20日(金) 晴 出勤 教長、教頭以下7人
泊まり 教頭以下5人

8:00 右翼炊き出し開始、配付物資を各グループに配付
10:00 小野柄小児童 計54人集合、老人と小さい子どもにおやつを配付
12:00 校区内巡視
16:00 中学生と児童清掃、保健所より医師、看護婦5人
18:00 各校職員ミーティング
19:30 各校代表と住民代表のミーティング
深夜 老人、救急車を病院へ搬送
避難所新聞1号発行

小野柄小学校の避難所日記

制作:小野柄小学校
発行:小野柄小学校

0 50 100 150 200校

住民の救出
遺体安置搬送
水調達搬送
食料調達搬送
医薬品調達搬送
けが人の応急措置
トイレなどの清掃
避難所見回り
外部からの問い合わせ対応
避難住民同士の人間関係の調整
生活上の苦情の対応調整
自治組織の運営・避難所の指導

教職員が行った業務

※グラフは、いずれも神戸市教育委員会「阪神・淡路大震災 神戸の教育の再生と創造への歩み」より

校長の一言で結束

吉田さんが住民への対応に追われていたころ、校長の福永修治さん（当時五十三歳）は西区の自宅にいた。タクシーで学校に向かったが全く動かない、おきあめて帰宅。翌日出動し、前日の惨状を聞いた福永さんは決意を固めた。「このままでは教師が不満や怒りの矢面に立たされ、長丁場を乗り切れない。避難所のルールは避難者自身で作ってもうしかなない」

震災から三日目の十九日午前、避難住民を校庭に集めた。「しばらくここで共同生活を送らなければなりません。こんなときだからこそ、いたわりの気持ちを持ち、できることからやりましょう。前後遅く、ひとりひとりとトイレ掃除をしていたおばあさんや娘の話を紹介した。ざわざわしていたその場がしんとした。殺伐としていた避難所の空気が、確かにその日から変わった。千七百人に膨れ

四日目には授業を再開した。遠方へ疎開した児童らを除く五十四人が空いていた図工室に集まり、寺子屋のような授業が始まった。

一週間後には、市職員や被害応、救援物資の配布、マスコミやボランティアの対応、そして教科書のない中で授業。八月まで続いた避難所での業務は、教職員にとって初めてのことばかりだった。

「日々、ろからとさの状況判断ができ、きょう訓練しておくとが大事だと感じた。非常時は、時間をかけて議論しているとかにいく。いいと思つたことをかいくやるしかなかった。嵐のような数力月間を体験した福永さんの実感だ。

細部未定とまどう学校

の管理運営の支援に従事する」と書いてある。

つまり、区役所が派遣する市職員や学校にいる教職員は、自主運営を軌道に乗せる側面支援に当たると説明は区からも受けている。

区に指示を仰ぐのか、校長の判断に従うべきか、学校の問い合わせが、校長や教師から寄せられて自主運営を任ざれている住民にも事前準備が求められる。名古屋市太白

避難所となった学校は地震で倒れないのが前提だ。各自治体は改修工事を急いでいるが、財政難も相まって耐震化はなかなか進まない。

内閣府が二〇一〇年度末現在でまとめた調査では、改修を含めて「耐震性がある」とした学校（幼稚園を含む）の割合は45・9％。中部六県

では三重県の59・6％が最高で、福井55・7％、滋賀55・3％などの順だった。全国トップは静岡県で69・7％だった。

また、文部科学省の〇二年四月現在の全国調査によると、公立小中学校の「耐震費充断」の実施率が60％を超えているのは四都県だけ。中部

六七彫る年 一丁 同

名古屋市「自主運営」が基本

たるところになる。ただ、何をどのように支援するかは、各区役所と学校との話し合いに委ねている。生徒数や立地で対応が異なれたために、市全体の統一したマニュアルがない現状に、学校側には不安を訴える声もある。

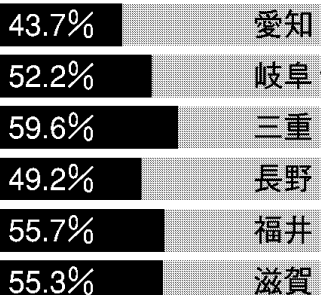
「おらず、一校内で議論したくてもできない」と打ち明けた。児童や生徒と同じ年ごろの子どもを持つ教師にとっては、自宅に帰って自分の子どもを迎えに行くのか、学校に残って受け持ちの子どもを守るのかのジレンマもある。市

住民の自主運営が基本でも、震災時の混乱の中では、その場しのぎの教職員が第一に対応せざるを得ない。市内の全小中学校で一斉に避難所が動き出すときに、すべての学

区の植田南小（児童約九百人）では昨年七月、校長や児童、保護者ら約五百十人が体育館で寝泊まりする避難所訓練を、T A の呼び掛けで開いた。

会長の神谷和彦さん（左）は阪神大震災で神戸市にボランティアで駆け

耐震化された 学校の割合



財政難『耐震性ある』45%

では三重県の59・6%が最善で、福井55・7%、滋賀55・3%などの順だった。全国トップは静岡県で69・7%だった。また、文部科学省の〇二年四月現在の全国調査によると、公立小中学校の「耐震診断」の実施率が60%を超えているのは四都県だけ。中部五県では岐阜県の65・5%だけではない。トップはやはり静岡県のもので、83・1%だ。

名古屋市は新年度予算案約百五十七億円の地震対策事業費を計上。ほとんどを公共施設への耐震化に投じ、学校の耐震改修工事は約三千四百二十万円で、財政局は「すべての対策を講じるには、十分の一に満たない予算額」としている。